



道徳の時間の勉強～よりよい理解のために

こころの手を、つなごう。

一人で なやんで いるなら、
二人で かんがえて みよう。

二人で わからない ことは、
三人で はなしあって みよう。
こころが、ちょっと ちかづくかも。

一人で できない ことは、
だれかと やって みれば いい。
こころの手を つないで、
みんなで やって みれば いい。

手を つなぐと 手のひらが
あったかく なるように、
こころの手を つなぐと
こころが あったかく なるから。

ちからを あわせる、
ちから。

左の「ことば」は、2年道徳の教科書の見開きに載っている「ことば」です。学年毎に、違っています。それぞれの学年は、

1年「えがおも、ことばだよ」

3年「気持ちがわかると、気持ちがかわる」

4年「ちがうって、おもしろい」

5年「自分をもっと、ぼうけんしよう」

6年「どんな自分も、ほんとうの自分」

となっています。いつか紹介したいです。

道徳の時間は、週1時間、教科書等の教材を使って、【自分自身に関すること】【人との関わりに関すること】【集団や社会との関わりに関すること】【生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること】について、考えを出し合ったり、議論したりしながら自己を見つめ、物事を

を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めていく時間です。これらを通じて、よりよく生きていくための資質・能力を培うことが道徳教育の目標です。

道徳の時間では、例えば「感謝」について考えるとき、「感謝しなさい」と言うのではなく、教材の登場人物の心情を考えることで、その人物に自らを託し、「感謝することの大切さ」を自覚していきます。そして、教材での話し合いを自分自身の振り返りに生かしていきます。

しかし、子どもたちはすぐに行動にうつせるかというとそうはいきません。思いはあるけれど、なかなか行動（お礼）するのは難しいということにも気づきます。即効性というより、じっくりじわじわ効いてくるようにしていきます。だから、「感謝」についても発達の段階に応じた教材を使って、繰り返し繰り返し学ぶことになります。

特に、授業中「なるほど」「私も同じだ」「そういう考えもあるんだ」「私とは少し違うな」と子どもたちのつぶやきがたくさん出てくると、「私も言いたいな、聞いてほしいな」「聞いてもらえてうれしい」「違ってもいいんだ」と様々な考えが出し合

える授業を目指したいです。

数年前から、道徳は教科書もある教科となりました。評価については、数値で表せることが出来ないため、文章表記となります。

また、道徳ファイルでワークシート等に自分の思いや振り返りを書いています。近々持ち帰りますので、内容をご確認いただければと思います。

解 除 時 刻	授 業 に つ い て	給 食
早朝～午前7時まで	普通授業	有 り
午前7時以後～ 10時まで	自宅で昼食を食べ、 午後1時をめぐ に国語・算数の用意をして登校。 下校は3時頃。 全学年とも午後2時間の授業	無 し
10時以降	臨時休業	

梅雨も明けましたが、大気の急激な変化により警報が発令される場合もあります。すでに配布していますプリントをよくご確認ください対応をお願いします。今年度から、警報解除時刻が10時を基準に、臨休や午後登校が変わっています。

「あい」のある学校の風景



【プール水泳】



【交通安全教室】



【校区内点検・愛育会】



【クリーンセンター・浄化センター・4年】



【図書ボランティア】



【ミシンボランティア】



【不審者対応避難訓練】



【学校運営協議会】



【学校訪問】